



平成 29 年度  
第 71 号



# 能登高だより

## 石川県立能登高等学校

927-0433

石川県鳳珠郡能登町字宇出津マ字 106-7

TEL:0768-62-0544 FAX:0768-62-2935



### 東京・沖縄修学旅行へ

6/25(日)~28(水)の日程で、2年生が東京・沖縄へ修学旅行に行ってきました。1日目は、地域創造科は「いしかわ百万石大江戸本店」にて能登町PR&販売実習、普通科は都内大学キャンパス見学を行いました。2~4日目は、沖縄での平和学習、沖縄美ら海水族館、守礼門・首里城公園での文化・伝統に触れる機会を得られました。多くの方々のご協力のおかげで、楽しく充実した3泊4日を過ごしてきました。ありがとうございました。



### 21H 谷元 美紗

自由研修で立てた計画が、その通りにはいかず、自分たちの力でどうにかしようと考えたことが一番印象に残っています。自分の力で情報を集め、今後の計画を立てることが結構大変でした。予定時間を超過してしまい、「計画していたところを一つキャンセルして次の目的に行く」と考えるのに意見が分かれてしまい、時間がかかってしまいました。もつと余裕のある計画を考えれば違ったのではないかと、思います。

グループリーダーとして皆をまとめる時に、時間配分を考えておらず、それに対して不満があったり、回りたいところが回れなくてリーダーとしての仕事ができなかったので今後は今回の出来事を生かしたいと思いました。

### 修学旅行で一番印象に残ったこと



### 21H 小関 英里子

友達の今まで知らなかった部分を知ったり友達に助けられたり、沖縄の人のあたたかさに触れたりして、人との絆がより深められたと思います。これからの学校生活でも「ゆいまーる」の精神を持ち続けていきたいです。

そして、団体行動の大切さと楽しさを学びました。一つの失敗により皆に迷惑がかかってしまうという責任の大きさを痛感しました。また、グループで東京や沖縄を観光した際、ハプニングが起こり、皆で話し合っ

て乗り越えた時には達成感を味わえました。さらに、沖縄ならではの綺麗な海や自然、赤レンガやシーサーであふれた街並。あの暑さは鮮明に覚えています。沖縄初日で少し嫌だと思っていたあの暑さが、帰ってきた今ではとても恋しいです。

### 21H 濱中 佑

以前は、戦没者に「かわいそう」とか「悲惨やなあ」と、他人の感情しか持っていませんでした。平和祈念資料館に行って、沖縄戦体験者の資料を読んだとき、多くの人が「まだ生きたい」ではなく「やっこの苦しいところから抜けられる」という気持ちを持っていたことがわかって、胸が苦しくなりました。

アブラチガマの中に入ったときは、明かりがなくすぐ目の前も見えない暗闇に恐怖を感じました。当時の人たちはいつ殺されるかわからない状況下で、その暗闇の中で生活していたのだと思うと「やっこの苦しいところから抜けられる」という気持ちも理解できました。

今回の平和学習を通して、戦没者の気持ちを考えてみようと思えるようになりました。

### 22H 坂井 日向子

自主研修は女子の班で石川県のアンテナショップまで自力で行くはずでしたが、どこにあるかわからず、同じ場所を行ったり来たりしてしまいました。遅れて着くとほとんどみんなそろってました。農業コースが作った「クッキー」「イチジクジャム」「きやらぶき」を売り始めても、いつもは賑やかな男子達が道端の置物になっていて、情けない気持ちになりました。いつもはあまり大きい声は出さないけど、何のために来たかわからないので一生懸命声を出しました。お店の人や保健の先生からアドバイスを貰って、言うことを工夫したりしました。夕方のまだ明るいうちに全部売り尽くせてとてもうれしかったです。このときのことが、今回の修学旅行で一番勉強になりました。

### 平和学習を通して

### 22H 阿知地 聖也

今まで学べなかったこと、体験できなかったことをたくさんしました。

販売実習では、「社会に出たとき会社で働くことの大変さ」「声を出さなければ人はよってこない」「笑顔を忘れず接客することが大切だ」と痛感しました。

沖縄での平和学習では、戦争によって失われた命など、戦争はいいことが一つもなく何もかもが失われていくので、してはならないものだ改めて感じました。戦争で亡くなった方々の命や人や動物の命の尊さを感じることができたことによってこれからの自分たちの生活の仕方や友達との接し方もよくなっていくと思います。

### 販売実習を通して

### 22H 鍋谷 丞

実習中誰にも振り向いてもらえず、しかも、自分達が中心に立たなければならなくなり、とても焦りました。また、初めての呼び込みで声が出ず、恐怖心が少しずつ大きくなっていき、接客の難しさと呼び込みの恐怖を改めて気づかされました。そんなときに「いしかわ百万石大江戸本店」の店員さんがリードしてくださいました。また、お客としてきてくださった実習生の大屋先生にはとても感謝しています。先生方の助けや店員さん達の後押しもあり、ギリギリでしたが完売できてとてもうれしかったです。



32H 向谷 智稀

主に、学校周辺の道路の除草・清掃活動を美化・環境ISO委員会が中心となって行っています。約30人という少人数でしたが、一人ひとり役割を分担して時間ぎりぎりまで効率よく作業しました。最初は、「早く帰りたい」「部活に行きたい」などと言いつつながらも、いつの間にかみんな黙々と取り組んでいました。素手では抜けない草も鎌や鍬で抜いたり、一輪車で抜いた草を落とさないように集めたり、やりがいを感じるようになっていました。それは、どんどん増えていく刈り終わった草の量や近所の方々の「ありがとうね」「助かるわ」という言葉が私たちの支えになっていたからです。近所の方々の力になれたと思うと、とても温かい気持ちになりました。

今後もこのようなボランティア活動を通して、私たち能登高生が地域に貢献していけたらと思います。このような活動を能登高の伝統として後輩たちに引き継いでいけるよう頑張っていきたいと思っています。



地域貢献プロジェクト 除草ボランティア

約30名の生徒が日頃お世話になっている地域の方々に少しでも恩返しをするために、除草ボランティアをさせていただきました。少数ではありましたが、一人一人が一所懸命に取り組みました。



31H 赤塚 彩

私は今回の文化教室での演劇を観て、戦争の恐ろしさを痛感しました。今までは原子爆弾などの核兵器や自害せざるを得ない恐怖といった戦争に対する外面的な恐ろしさしか感じていませんでした。しかし、今回の演劇で人間の内面的な怖さを感じました。出演者の皆さんが私たちに伝えたかったことは違ってもいいかもしれませんが、戦争をする中でのゆがんだ「愛国心」や死ぬことに誇りを感じていることが当たり前となっている感じが感じ取られました。そう思うまで追い詰められた若者達の精神を考えると戦争の恐ろしさをより痛感しました。

行ってほしくないと思っている親たちも、見送るときは笑顔で見送らなければならないし、若い兵士も泣いてはいけない、そんな非人間的な行動をさせる日本軍も、反抗せずに従う日本人も全て戦争によって狂わされたと思うと、戦争の影響に恐怖を感じました。

31H 園子石 和美

戦争は二度と繰り返してはならないものと改めて思いました。私と年の変わらない少年達が国のために特攻攻撃をするというのは立派だけど、残酷で恐ろしいし悲しいです。特攻兵達はもちろん、周りの家族や友達、恋人もすごく辛く、耐えがたかったと思います。特に特攻兵達を指導していたという人が印象に残りました。自分が教えた少年達が特攻をして自分は残され、罪悪感と申し訳ない気持ちでいっぱいだったと思います。自分が特攻隊に志願すると決めたとき家族はすごく辛かったと思います。その意思を尊重しようとして妻と子どもがどんな思いで川で自殺したのかと思うとすごく悲しいです。特攻は国を守るために必要なことだったのかも知れませんが、でも、私は、国を守るために多くの人が悲しい思いをしなければならないのはよくないことだと思います。国を守るための道具ではなく、一人の人間として生きることができるとの幸せを改めて感じました。

11H 屋舖 麗音

現代との違いについて深く考えさせられました。劇の中で、特攻兵達は親しい人達との別れを悲しみながらもあまり表に出さず、笑顔で去って行きました。今の時代を生きている中でどれだけの方が彼らと同じような精神力を持っているのだろうと思いました。そして、若くして死を迎えなければならなかった特攻兵達と違い、楽しく元気に生きられる私達はやりたいことを十分にやり抜ける生き方をしたいと思います。

また、残された人達と私が同じ立場だったら、同じ気持ちになると思いました。息子と代わってあげたいと願う親や、本当は行ってほしくないが願う人達の気持ちが強く伝わってきました。

難しい内容もありましたが、自分なりに戦争について考えることができました。

「知覧のさくら」 高等学校文化連盟文化教室

「あした俺、帰ってくるよ。  
俺、大きな虫になって帰ってくるからな。」

若き特攻隊員が集う「富屋食堂」を舞台に、一度飛び立ったが最後、二度と戻ることはない不条理な作戦の中に、自らの命の価値を問いただしていく。



石川県学校農業クラブ連盟大会  
最優秀賞 32H 瀬戸 こめる

7月12日(水)に行われた石川県学校農業クラブ連盟大会 意見発表Ⅲ類の部にて、「ヒューマンサービス」をテーマとして発表し、見事最優秀賞を受賞しました。8月23日(水)～24日(木)に白山市松任学習センターで行われる北信越ブロック大会に出場していきます。



鳳柳寮 避難訓練

7月6日(木)に鳳柳寮にて、避難訓練を実施しました。寮生一人一人が真剣な様子で取り組みました。今回の訓練では、消防の方にも協力いただいて放水訓練も行われました。

非常時に備えて、自分たちが心がけておくべきことをいま一度しっかりと考えるよい機会となりました。



松波中海洋体験

7月12日(水)に松波中学校3年生が能登高校に来校しました。ウィンドサーフィン・鯔のフライ調理を体験しました。本校水産コース3年生がサポートしてくれました。



12H 竹口 陽平

戦争は二度とあってはならない。今回の演劇を見て強く感じさせられた。

これからの未来を担う若者が、特攻隊という出撃すれば帰ってくるのができない恐ろしい作戦を任された。このような作戦を出した偉い人の考えもそうだが、作戦を受け入れた若者達の心も分からなかった。その先には確実な死が待っているのに、なぜ受け入れることができるのか私は理解しきれない。しかし、我が国を勝利に導きたい心や愛する者のためという気持ちが彼らの勇気になったのかもしれないとも思える。

今の平和な日本があるのは、この勇気ある英雄達のおかげであることは間違いない。そのことを忘れずに私達はこの平和を維持し続けていかなければならない。

八月行事予定

- 1日(火)～7日(月) 夏季中期補習
- 4日(金) 1年オープンキャンパス
- 5日(土)～6日(日) 3年全統マーク模試
- 9日(水)～11日(金) 学習合宿
- 18日(金)～25日(金) 夏季後期補習
- 29日(火)～31日(木) 全校登校日